

青森山田 29連覇

野西に2-1、逆転勝ち

全国高校サッカー 青森県大会
第104回全国高校サッカー選手権青森県大会は2日、青森市カクヒログループアスレチックスタジアムで決勝を行った。9年連続で同じ顔合わせとなった一戦は、青森山田が2-1で八学野西に逆転勝ちし、29年連続31回目の優勝を果たした。青森山田は12月28日から来年1月12日まで国立競技場などで行われる



【決勝・八学野西―青森山田】後半34分、青森山田は深瀬幹太（中央）がロングシュートを決め、2-1とする。青森市カクヒログループアスレチックスタジアム

全国大会に出場する。
（千葉達也、後村歩稀）
▽決勝
青森山田 2011 八学野西 2-1
▽得点 山田、深瀬 青小向（八学野西）
▽補点 藤原、福井 青関下（八学野西）
【評】青森山田は王者の底力で全国への切符をつかんだ。前半に1点を先制されたものの攻め続け、後半26分には左コーナーキックから菱田が頭で合わせて同点に。終了間際の同34分、深瀬が放

野西 先制実らず

後半、王者の圧力に屈す



後半、堅い守備でチームの危機を救う
八学野西のGK喜村孝太郎（中央）

〇再び頂点を目指した八学野西だった。夏の再戦はならなかった。三上晃監督は「幸先の良いスタートだったが、後半の圧力に耐えられなかった。力負けだ」と悔しさをにじませた。

前半10分、味方のパスを胸で受けた小向蓮翔は、相手のマークが一瞬だけ外れたのを見逃さなかった。そのまま放ったシュートはネットを揺らして先制。持ち味の堅い守備も健在で、GKの喜村孝太郎は何度もフラインゼーブを決めた。しかし後半、昨年王者の意地を見せる青森山田の反撃を食い止められず、逆転負け。最後のホイッスルが鳴ると、選手らはその場に崩れ落ち、天を仰いだ。体調不良のため、準決勝からの出場となった藤田律主将は「決勝までつないでくれた仲間の思いを背負って戦ったが、最後まで走りきれなかった」とうなだれた。あと少しで頂点に届かなかった八学野西。喜村は「3年間、青森山田とやり合ってきた。最初は太鼓だが、年々差は埋まってきた」とこれまでの振り返りつつ、「相手が夏より成長して、僕らが成長しきれなかった。そういう面でも負けていた」とつづいた。